

重要文化財の指定について

- (1)名 称 みやざきけんむかでづかこふんしゅつどはにわ 宮崎県百足塚古墳出土埴輪 一括
- (2)所在地 宮崎県児湯郡新富町大字上富田7491
- (3)所有者 新富町(新富町総合交流センター保管)
- (4)概要

百足塚古墳は、一ツ瀬川左岸の台地上に展開する国史跡にゅうたばる新田原古墳群に属する全長約82mの前方後円墳で、古墳時代後期中頃(6世紀中頃)の築造と推定される。平成9年から16年に史跡の保存整備事業に伴う発掘調査が実施され、主に墳丘西側の周溝内およびその周囲から、九州地方では類をみない遺存状態良好な多数の埴輪が出土した。

形象埴輪は多種多様で、特に性器を露わにする女性埴輪や、毛を逆立てる鳥形埴輪、太鼓形埴輪など、きわめて希少な例が含まれる。他にも家形や柵形、甲冑を纏まといきざ跪坐する男性、巫女とみられる女性など豊富な種類があり、古墳時代後期の埴輪祭祀、葬送儀礼を考えるうえで重要である。

また、けいたい継体天皇陵との説もある大阪府いましろづか今城塚古墳出土の埴輪と器種構成や古墳上での配置に共通性がみられ、ヤマト王権による南九州地域への政治的・文化的影響を考えるうえでも注目される資料である。



(写真提供 新富町)



写真1 女性埴輪
性器を露わにする女性



写真2 鳥形埴輪
毛を逆立てる鳥



写真3 太鼓形埴輪



写真4 家形埴輪



写真5 男性埴輪
甲冑を着用した男性がひざまずく姿

人物埴輪 ひざまずく人